

## 至適使用のポイント (医療従事者用)

### 適応症別の注意点

#### □ 1型糖尿病

ケトアシドーシスの指導の重要性が特に高い患者です (☞CQ11参照)。

#### □ 2型糖尿病

頻度は低いものの、ひとたびケトアシドーシスとなると重症化して致命的となる可能性があるため、事前に要点を押さえた指導をおこないましょう (☞CQ12参照)。

#### □ 慢性腎臓病・慢性心不全 (糖尿病非合併)

糖尿病非合併患者において、SGLT2阻害薬はケトアシドーシスの発現を増やさなかったことが報告されています (☞CQ12参照)。

### ケトアシドーシスのリスク

#### □ SGLT2阻害薬投与が推奨されない患者

- ・インスリン治療アドヒアランス不良
- ・インスリンポンプ開始直後/トラブル歴
- ・ケトアシドーシスの頻回な既往歴
- ・アルコール依存症/節酒困難
- ・過度な糖質制限中 ・絶食/飢餓状態
- ・感染 ・脱水

□ この他、糖質入りの清涼飲料水の多飲に注意が必要です。高血糖と脱水が進み、インスリンの効きが悪くなり更なる高血糖やアシドーシスを引き起こすことがあります (特に夏場は注意)。  
糖質入りの清涼飲料水は血糖値を上昇させるため、普段から控える様に指導してください。

□ 周術期のストレスや絶食はケトアシドーシスを惹起する可能性があるため、術前休薬が必要な場合があります (☞「その他の注意事項」の指導箋を参照)。

### 正常血糖ケトアシドーシス

□ SGLT2阻害薬を服用中の糖尿病患者は、**血糖値が正常でもケトアシドーシスが起ころう**ことに注意が必要です。高血糖を伴う通常のケトアシドーシスとは、取るべき対応が異なります。病態の見極めと適切な初期治療が必要となりますので、症状発現時には医療機関の受診を勧めてください。

☞ケトアシドーシスに特徴的な検査所見は、「シックデイ」の指導箋を参照ください。

### ケトアシドーシス

● ケトアシドーシスとは

通常	ケトアシドーシス	
通常はブドウ糖からエネルギーを得ます	インスリンや炭水化物が足りないと、ブドウ糖ではなく脂肪酸を分解してエネルギーを得ます	通常、ケトアシドーシスは高血糖を伴いますが、SGLT2阻害薬の服用中は、高血糖がみられなくても症状が現れることがあります。 以下の症状が現れた場合は、早急に医療機関を受診してください。
		<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">吐き気</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">食欲不振</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">腹痛</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">呼吸の甘い匂い</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">激しいのどの渇き</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">息切れ</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">異常な眠気</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">意識の低下</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">脱力感</div> </div>

● ケトアシドーシスが起きやすいのはどんなとき?

- ✓ 急激にインスリンの量が減ったとき (注射忘れ、デバイスの故障など)。
- ✓ 感染症などで、熱がある/下痢・嘔吐などがある/食事が摂れないなどの、シックデイのとき (☞「シックデイ」の説明書を参照)。
- ✓ 過度な糖質制限 (炭水化物ダイエット) をしているとき。
- ✓ 脱水症状があるとき (☞「脱水」の説明書を参照)。
- ✓ 多量の飲酒をしたとき。
- ✓ 過度な有酸素運動をしたとき。

● 普段の生活で気をつけたいこと

- ✓ 特に1型糖尿病の患者さんは、絶対にインスリン注射を中止しないでください。
- ✓ 糖尿病の患者さんは、シックデイのときにはSGLT2阻害薬を休薬し、体調が戻ってから再開してください。糖尿病ではない患者さんは、シックデイのときはどうしたら良いか、事前にかかりつけの医師や薬剤師に相談しておきましょう。
- ✓ 自己判断で過度な糖質制限をおこなわないでください。
- ✓ 長時間の有酸素運動の際には、炭水化物の摂取量を増やすなどの調節が必要となる場合もありますので、事前にかかりつけの医師や薬剤師に確認しておきましょう。

©2023日本腎臓病薬物療法学会